

水俣学講義 第2集

原田正純 編著

2005年3月20日発行

目次

第二期 講義録の出版にあたって (原田正純)

執筆者紹介

第1回 なぜ、本学で水俣病か (坂本正)

水俣病は終わっていない (原田正純)

第2回 水俣病患者家族から訴えたいこと (上村好男)

第3回 文化人類学から見た水俣病 —水俣病におけるライフヒストリーの研究
(萩原修子)

第4回 記録映画作家の“原罪”について (土本典昭)

第5回 離礁 水俣病対策に取り組んで (吉井正澄)

第6回 過ちを三たび繰り返さないために (坂東克彦)

第7回 社会福祉と水俣病事件 (小野達也)

第8回 報道としての水俣病事件 (小林直毅)

第9回 水俣病における食品衛生にかかわる問題 (津田敏秀)

第10回 私と水俣病 (日吉フミコ・松本勉)

第11回 胎児性水俣病をめぐる問題 (原田正純)

第12回 水俣学二期目で何が見えてきたか —いまの水俣について考える二、三のこと
(花田昌宣)

水俣病年表

おわりに (原田正純)